

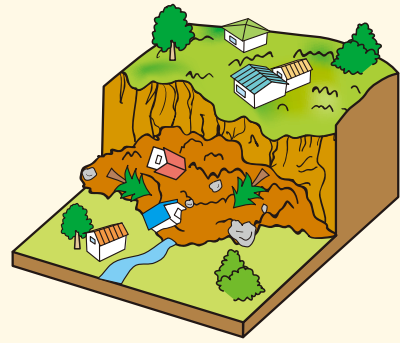


土砂災害

土砂災害は、長雨や集中豪雨などが要因になって、急傾斜地などで突発的に発生して、一瞬にして大きな被害をもたらす災害です。発生する場所や現象により「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」の3つに分類されています。

土砂災害の種類と前兆

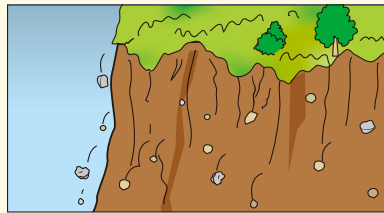
急傾斜地崩壊(がけ崩れ)



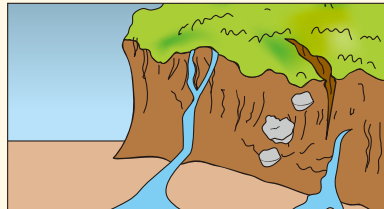
がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。突然崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。

前兆現象

- がけから小石がぱらぱら落ちてくる



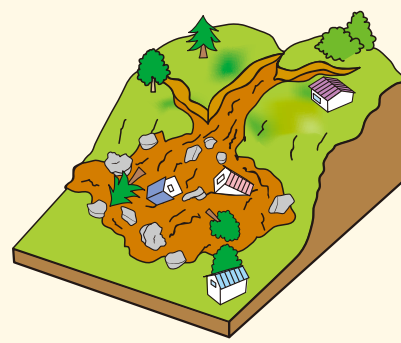
- がけから水が湧き出る



- がけに割れ目が見える



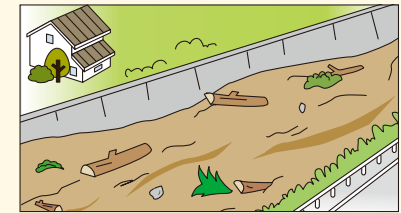
土石流



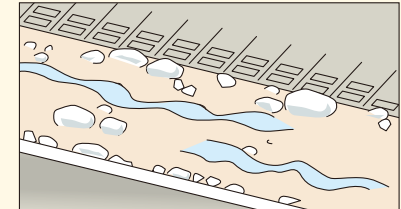
土石流は、谷間で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合っ流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。

前兆現象

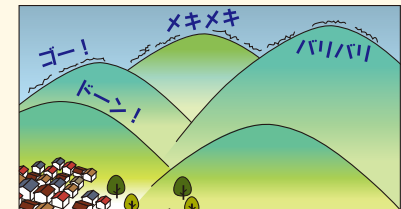
- 急に川の水がにごり流木が混ざる



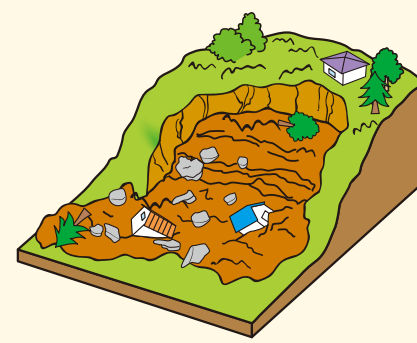
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



- 山鳴りがする



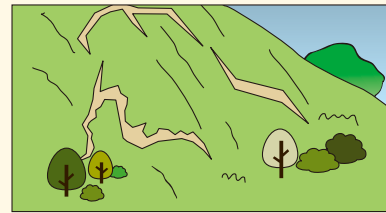
地すべり



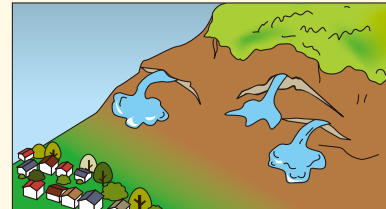
地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、広い範囲に被害をもたらします。

前兆現象

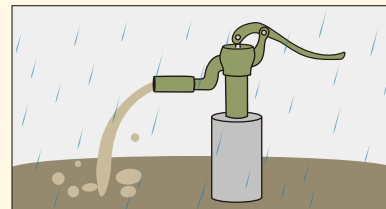
- 地面にひび割れができる



- 斜面から水が噴き出す



- 井戸の水がにごる



大雨や台風、地震が起きたときは、地盤がゆるみ、土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。放置されている竹林は地盤が崩れやすいので、細心の注意が必要です。所有者や管理者は適切な管理をお願いします。

土砂災害(特別)警戒区域

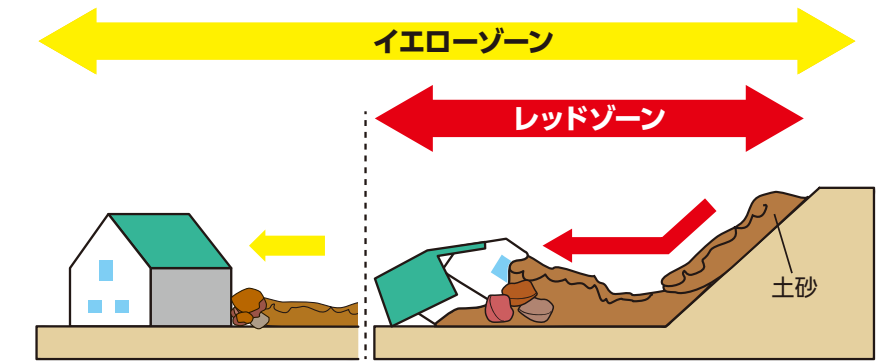
福岡県ではがけ崩れや土石流などの土砂災害から県民の命を守るため、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を指定しています。土砂災害のおそれがある区域を防災マップで確認し、自宅の近くに危険な場所があるかどうか調べてみましょう。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)

建物が破壊されるおそれがあり、住民に大きな被害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域
土砂が到達するおそれがある範囲



避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。左図の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に特別警戒区域においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。土砂災害警戒区域の中にある道路は行き止まりになることがあります。避難所への避難経路を決めるときは、迂回ルートや、別の避難所への避難を検討してください。

- 1 土砂災害特別警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。

☆土石流特別警戒区域では垂直に避難する。



- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の頑丈な建物の高層階へ避難する。



- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

☆急傾斜地(特別)警戒区域では、斜面から離れる方向に避難する。

土砂災害警戒情報

※土砂災害警戒情報は、土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況になったとき、対象地域を特定して警戒を呼びかける情報で、福岡県と気象庁が共同で発表します。この情報が出たら、特に注意が必要です。

※土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、避難の判断を行なってください。



防災メモ

土砂災害の危険度

スマートフォンで「キキル(危険度情報)」を検索し、地図の土砂災害ボタンを押すと、身近な土砂災害の危険度を確認できます。



気象庁危険度分布(キキル)

危険度分布の5段階区分

黒	災害切迫【警戒レベル5相当】
紫	危険【警戒レベル4相当】
赤	警戒【警戒レベル3相当】
黄色	注意【警戒レベル2相当】
白(水色)	今後の情報等に留意

